

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2009年2月)

発表日2009年3月30日(月)

～足元は大幅減も、来期は下げ止まってくる見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 齋藤 俊輔

T E L : 03-5221-4524

(単位: %)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)				消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		出荷	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
07	10-12月	0.9	3.3	1.4	4.4	1.2	1.3	▲ 0.4	0.1	▲ 1.0	1.5	1.6	5.3		
08	1-3月	▲ 0.7	2.3	▲ 0.5	3.1	0.0	2.1	0.6	1.1	▲ 3.9	▲ 1.0	0.4	3.8		
	4-6月	▲ 0.8	1.0	▲ 0.9	1.2	0.4	2.7	1.4	2.3	▲ 1.4	▲ 5.3	▲ 0.3	3.9		
	7-9月	▲ 1.3	▲ 1.4	▲ 1.8	▲ 1.4	1.6	3.2	3.6	5.3	▲ 5.6	▲ 11.2	▲ 1.2	1.4		
	10-12月	▲ 12.0	▲ 14.8	▲ 11.8	▲ 15.0	2.7	4.7	17.6	24.2	▲ 8.4	▲ 18.7	▲ 9.9	▲ 11.2		
08	1月	▲ 0.5	2.9	▲ 0.5	3.9	▲ 0.2	1.9	▲ 1.6	0.6	▲ 1.7	▲ 1.0	0.9	6.5		
	2月	1.6	5.1	1.2	5.8	0.1	2.3	▲ 1.4	▲ 1.1	▲ 1.4	1.8	1.0	5.5		
	3月	▲ 3.4	▲ 0.7	▲ 3.9	0.1	0.1	2.1	7.1	4.4	▲ 5.2	▲ 3.1	▲ 5.3	0.2		
	4月	▲ 0.2	1.9	0.9	2.8	▲ 1.2	1.0	▲ 3.9	0.4	0.3	▲ 5.7	3.6	7.3		
	5月	2.8	1.1	2.0	1.7	0.5	1.5	0.0	2.3	6.9	▲ 2.2	0.9	4.0		
	6月	▲ 2.2	0.0	▲ 3.0	▲ 0.6	1.1	2.7	3.8	4.0	▲ 6.2	▲ 7.5	▲ 3.2	0.8		
	7月	1.3	2.4	1.9	3.1	▲ 0.1	2.2	▲ 3.6	1.3	▲ 2.9	▲ 11.3	3.6	9.2		
	8月	▲ 3.5	▲ 6.9	▲ 3.7	▲ 6.8	▲ 0.3	1.7	7.7	9.5	▲ 3.9	▲ 15.3	▲ 3.6	▲ 6.3		
	9月	1.1	0.2	0.4	▲ 0.6	2.0	3.2	▲ 0.6	4.7	5.4	▲ 7.6	▲ 1.3	1.2		
	10月	▲ 3.1	▲ 7.1	▲ 3.0	▲ 7.3	1.8	4.4	3.9	13.6	▲ 3.0	▲ 11.7	▲ 2.3	▲ 5.1		
	11月	▲ 8.5	▲ 16.6	▲ 8.4	▲ 17.0	0.8	4.3	12.9	25.6	▲ 9.9	▲ 21.3	▲ 5.3	▲ 12.9		
	12月	▲ 9.8	▲ 20.8	▲ 8.1	▲ 20.6	0.1	4.7	6.5	33.4	▲ 3.0	▲ 22.3	▲ 7.2	▲ 15.2		
09	1月	▲ 10.2	▲ 31.0	▲ 11.4	▲ 31.6	▲ 2.0	2.8	11.9	51.7	▲ 11.1	▲ 30.5	▲ 11.5	▲ 28.5		
	2月	▲ 9.4	▲ 38.4	▲ 6.8	▲ 36.8	▲ 4.2	▲ 1.7	4.6	60.9	▲ 7.1	▲ 37.9	▲ 5.0	▲ 30.8		
	3月	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	4月	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 3、4月は、製造工業生産予測調査の数値

○ 5ヵ月連続の低下

2月の鉱工業生産は、前月比▲9.4%と5ヵ月連続の低下となり、おおむね事前コンセンサス（同▲9.1%、レンジ同▲11.0%～▲4.5%）通りの結果となった。足元の生産は引き続き大幅な減少傾向を辿っているとの判断に変わりはない。在庫は同▲4.2%と2ヵ月連続で低下となり、上昇に一服感がみられる。一方、在庫率は、出荷が大幅に低下したことから、同+4.6%と引き続き上昇している。

予測指数（3月：前月比+2.9%）を踏まえると、1-3月期は前期比▲23.2%と前期（同▲12.0%）から、減産幅が大幅に拡大する見込みだ。現時点では1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率で2桁を超える落ち込みが予想されるなど、足元では景気はさらに悪化しているとみられる。

もともと、3月に続いて4月も同+3.1%と増産見込みとなったことはプラス材料だ。内訳をみると、急激な減産が続いたことを背景に、在庫調整が進展したことから、輸送機械（同+7.0%）、電子部品・デバイス（同+5.2%）、情報通信機械（同+8.8%）など多くの業種で増産を計画している。特に付加価値額ウェイト、他業種への影響がともに大きい輸送機械が、2ヵ月連続で増産見込みとなっていることは心強い。仮に5、6月が前月比横ばいとすれば、4-6月期は前期比+1.7%となってくる。予想修正率や実現率を踏まれば、下振れる可能性には注意が必要だが、少なくとも生産の減少傾向に歯止めがかかる可能性は高まった。

○ 輸出の大幅な減少などを背景に総崩れが続く

業種別に生産指数をみると、相変わらず多くの業種で低下となっている。輸送機械（前月比▲23.2%）、一般機械（同▲15.2%）、電気機械（同▲10.4%）などの大幅な低下が続いている。足元の輸出をみると、

海外経済の悪化を背景に引き続き大幅な減少傾向を辿っている。こうした需要減退による稼働率の急低下、企業収益の大幅悪化などを背景に設備投資の減少テンポも加速している。外需依存度が高まった日本経済では、輸出の大幅な落ち込みを起点とした悪影響の波及は免れず、生産の大幅な減少が続いている。

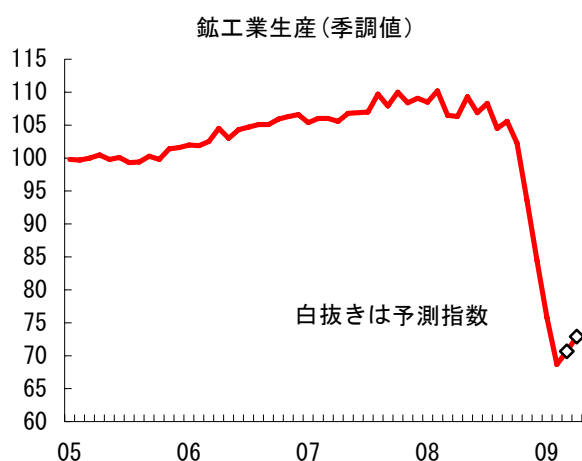
○ 在庫は低下に転じる

全体的出荷在庫バランスは、▲35.2%ポイントと前月（▲34.4%ポイント）からマイナス幅が小幅拡大した。ただし、在庫が前年比マイナスに転じるなど、悪化テンポは大幅に緩和している。業種別にみても、電子部品・デバイスなどでは在庫の伸び率が大幅に鈍化したことから、在庫調整の進展が続いている。

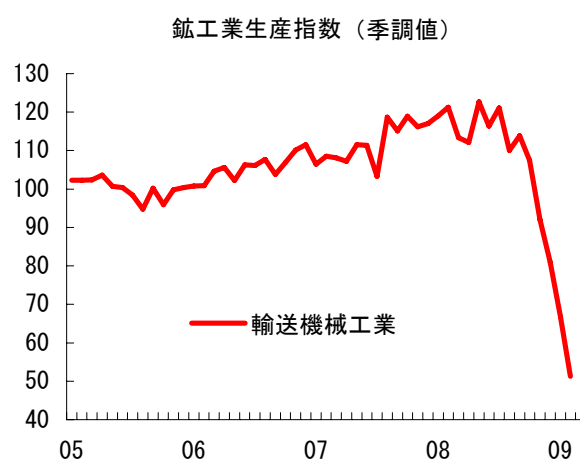
生産の先行きを展望すると、足元の在庫がピークアウトしたことから、次月以降、下げ止まってくる可能性が高い。在庫水準が落ち着いてくれば、生産の動向は需要次第となってくる。輸出は中国向けに素材関連財の動きが一部でみられているものの、牽引役としては力不足であり、全体でみれば年前半は引き続き減少傾向で推移すると考えられる。このため生産が持ち直してくるタイミングは、各国の景気刺激策の効果が顕在化してくる年後半以降と予想される。

○ 資本財、消費財ともに低調な動きが続く

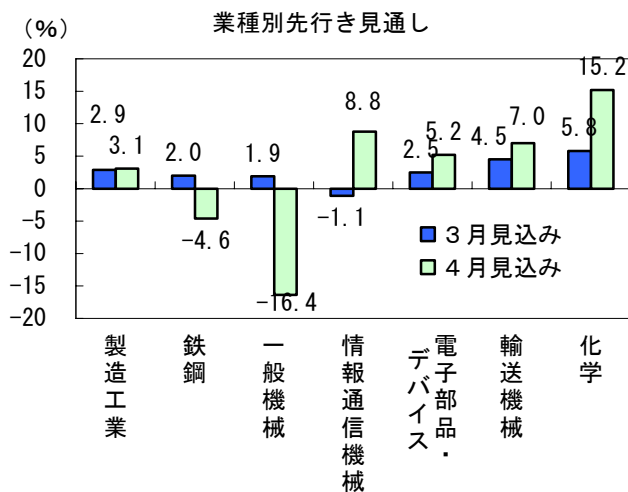
設備投資と関連の深い資本財出荷（除く輸送機械）は前月比▲7.1%（1月：同▲11.1%）と5ヵ月連続の低下となった。1－2月平均水準は、対10－12月期比▲19.0%と前期（前期比：▲8.4%）から減少テンポが速まっている。企業収益の大幅な落ち込みや投資マインドの低下などを背景に、設備投資は大幅な減少が続いている。また、消費財出荷も前月比▲5.0%（1月：同▲11.5%）と7ヵ月連続の低下となった。こちらも1－2月平均水準は、対10－12月期比▲19.5%と大幅な落ち込みとなっている。企業収益の大幅な落ち込みによる雇用・所得環境の悪化などを背景として、個人消費にも下押し圧力が高まっているようだ。



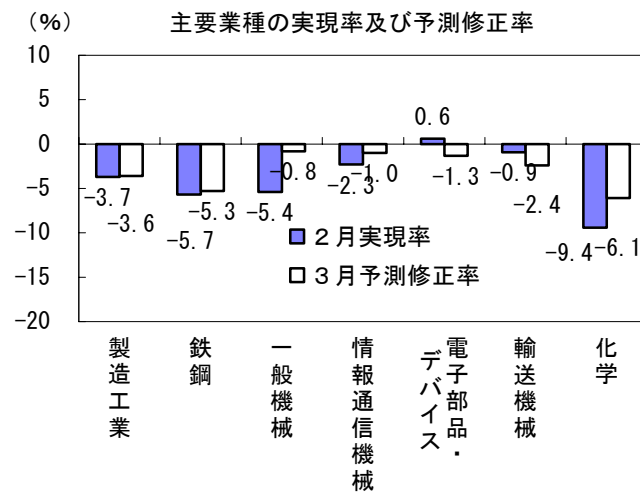
（出所）経済産業省「鉱工業指数」



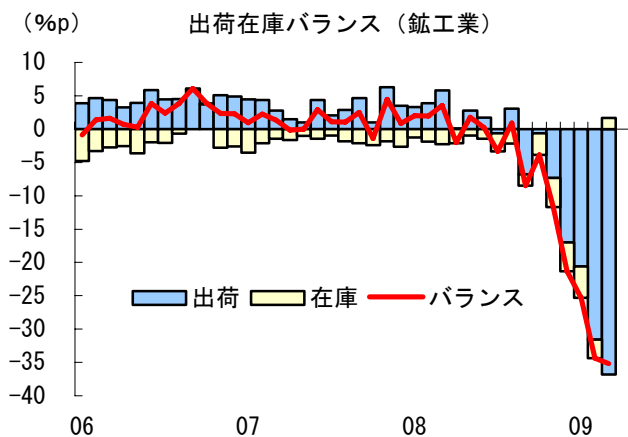
（出所）経済産業省「鉱工業指数」



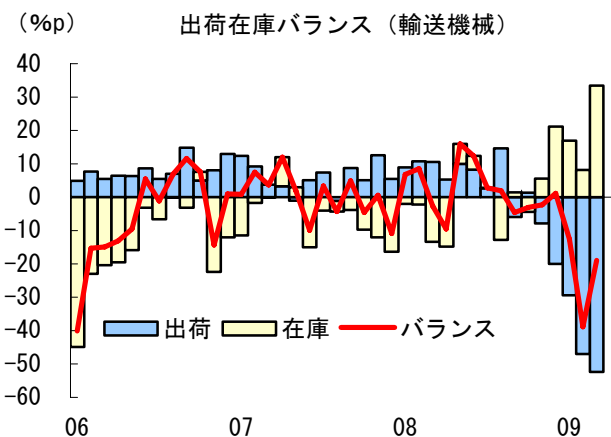
(出所) 経済産業省「製造工業生産予測調査」



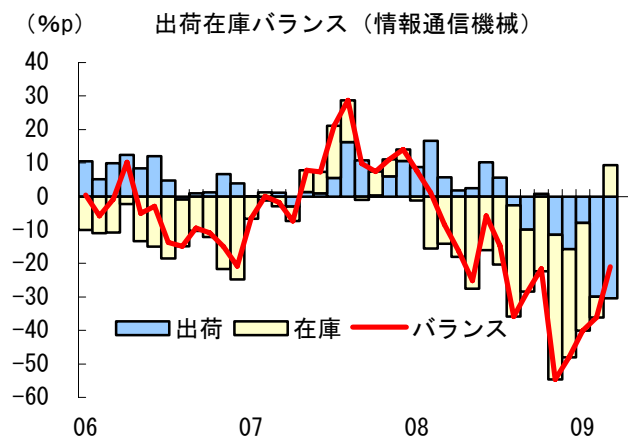
(出所) 経済産業省「製造工業生産予測調査」



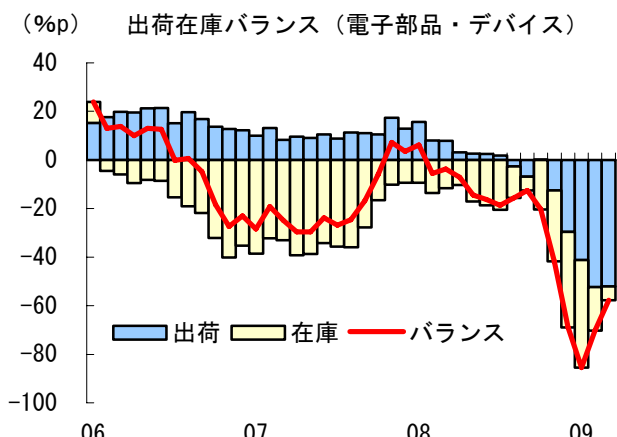
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」